

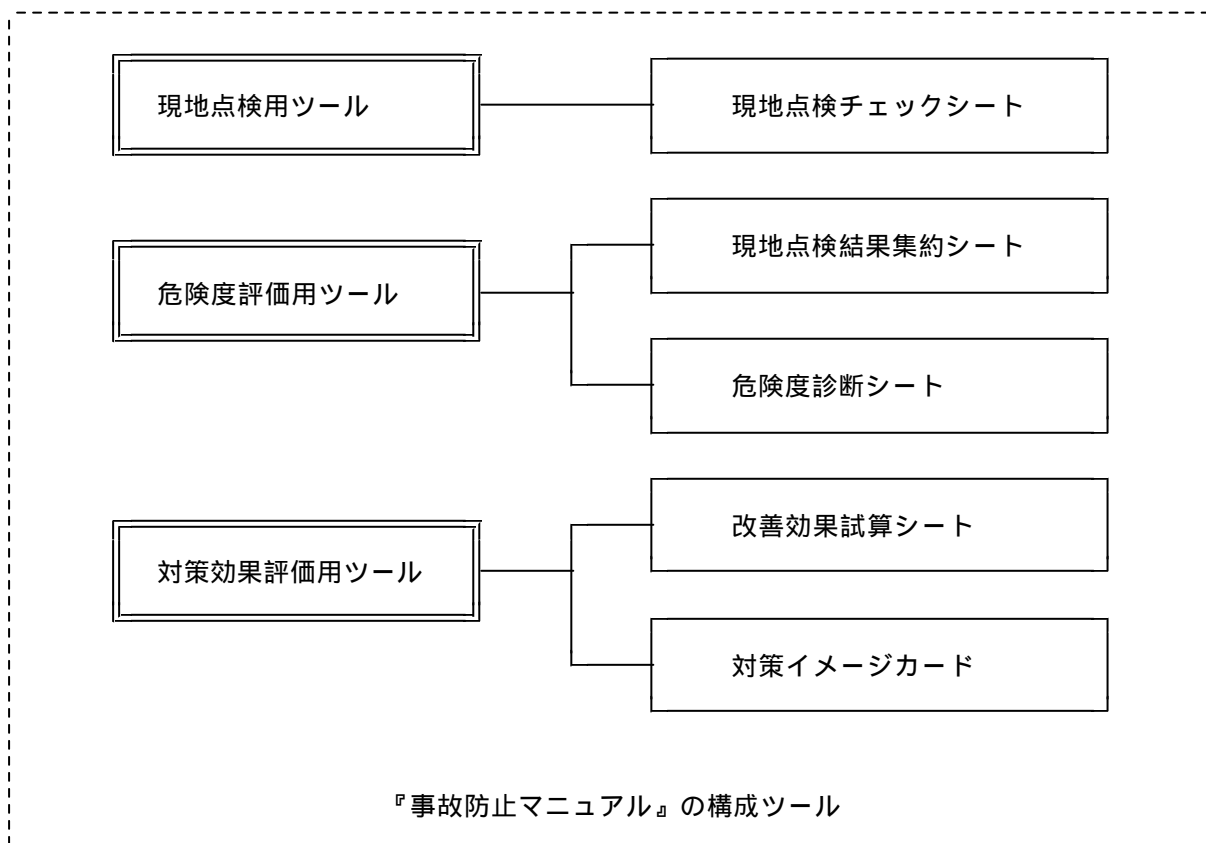
## ．事故防止マニュアル

これまでの調査結果を用いて、各工事事務所の実務担当者が任意の路線・箇所の危険度評価や対策効果評価及び、対策箇所の優先度の検討や対策内容の選定を支援するための実務者向けの事故防止マニュアル及び、使用方法などを示した手引書を作成した。

### (1) 事故防止マニュアルの構成

交通安全対策を実施していく過程において、「現地点検チェックシート」、「現地点検結果集約シート」、「危険度診断シート」、「改善効果試算シート」、「対策イメージカード」と称する現地点検及び危険度評価並びに対策効果評価用の各ツールからなる『事故防止マニュアル』を「1.はじめに」の交通安全対策実施フローのように位置づけ、各工事事務所の実務担当者が任意の路線・箇所の危険度評価や対策効果評価、対策内容の選定、対策箇所の優先度の検討などを容易に行うことができる手引書として本稿に添付する。

『事故防止マニュアル』の構成は以下のとおりである。



( 2 ) 現地点検用ツールの内容と使用方法

現地点検用ツールは、対象箇所の現地点検等を行い、分析・評価に必要なデータを収集・整理するツールで、以下のシートで構成される。

現地点検チェックシート

現地点検チェックシート

・ 様式 - 1 現地点検チェックシート

( 関連シート : 資料 - 1 現地点検の判断基準 [ C , D , G , K , M , a ] )

- ・ 現地の道路交通環境 ( 道路植栽や沿道施設に起因する横断者等確認遅れの危険性の有無、横断施設外横断の危険性の有無、道路形状や混雑度等の道路交通状況 等 ) がどのような状態にあるかを現地点検時に把握する際に用いるチェックシート。
- ・ チェックシート項目は、『事故発生危険度評価モデル』( 前記表 - 4 参照 ) の説明変数に対応している。
- ・ 横断者等確認遅れの危険性の有無など判断し難い項目については、具体的な例をイメージ図で表した判断基準を設けている。  
[ 資料 - 1 現地点検の判断基準 [ C , D , G , K , M , a ] 参照 ]
- ・ 対象箇所の現地点検を行い、「様式 1 現地点検チェックシート」の点検項目毎の該当番号に 印を記入する。

( 【使用手順 - 】 「様式 - 1 現地点検チェックシート」の作成手順と作成例 を参照 )

【使用手順 - 1】「様式 - 1 現地点検チェックシート」の作成手順と作成例

【使用手順 - 1】「様式 - 1 現地点検チェックシート」の作成手順と作成例

「資料 - 1 現地点検の判断基準 [C]、[D]、[G]、[K]、[M]、[a]」に基づく現地調査及び既存データを使用し、「様式 - 1 現地点検チェックシート」を作成する。

愛媛県内18箇所のうち、箇所 11に関する作成例を用いて説明。

手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [C]」に基づき、現地において歩道の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「様式 - 1 C歩道の植栽」の該当欄に 印を記入する。

手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [D]」に基づき、現地において中央分離帯の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「様式 - 1 D中央分離帯の植栽」の該当欄に 印を記入する。

手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [G]」に基づき、現地において沿道施設の状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「様式 - 1 G沿道施設」の該当欄に 印を記入する。

(次ページへ続く)

様式 - 1  
現地点検チェックシート(1/2)(使用例) - 愛媛 -

記入者所属・氏名	
路線名(距離)	国道11号(237.547km)
箇所(所在地)	11

点検区分	点検項目	点検内容	集約後の カテゴリ	判 断 基 準	印 記入欄	備考
1.視認性	C 歩道の植栽	対象箇所の手前10m区間の歩道の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[C]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 ( 印は1箇所のみ)	1:あり	11 信号交差点で植樹帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				12 信号のない交差点で植樹帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				13 沿道敷地の出入口で植樹帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				14 信号のない交差点で植樹帯が高く、また植樹帯も低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				15 植樹帯は低層化されているが、中・高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				16 植樹帯はないが、植樹帯の中・高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				17 その他(植栽の設置位置が隅切付近、枝張り大、葉多い、幹太い等)で、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				21 信号交差点で植樹帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				22 信号のない交差点で植樹帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
			2:なし	23 沿道敷地の出入口で植樹帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				24 信号のない交差点で植樹帯が低く、また植樹帯も低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				25 植樹帯が花壇で低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				26 植樹帯は低層化され、中・高木の間隔も長いため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				27 植樹帯はなく、植樹帯の中・高木の間隔も長いため、横断歩行者に対する視認性がよい。		
				28 その他(隅切付近に植栽はない、枝張り小、葉少ない、幹細い等)で、横断歩行者に対する視認性がよい。		
3:該当なし	3 歩道に植栽がない。					
	D 中央分離帯の植栽	対象箇所の手前30m区間(交差点以外では手前10m区間)の中央分離帯の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[D]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 ( 印は1箇所のみ)	1:あり	11 交差点(分離帯開口部を含む)で中央分離帯の植栽が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				12 中央分離帯に低木植栽はないが、高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
13 中央分離帯にかかわるその他の要因で、横断歩行者に対する視認性が悪い。						
21 交差点で中央分離帯の植栽が除去されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。						
22 交差点で中央分離帯の植栽が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。						
23 中央分離帯の低木が連続していないため、横断歩行者に対する視認性がよい。						
24 中央分離帯の緑化方法がその他(草花、背の低い雑草等)で、横断歩行者に対する視認性がよい。						
2:なし	3 中央分離帯の植栽が連続しており、横断が物理的に困難。					
	4 中央分離帯に植栽がない。					
	5 中央分離帯がない。					
G 沿道施設 (建物・塀・庭木等)	対象箇所の沿道施設(建物・塀・庭木等)の状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[G]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 ( 印は左・右の沿道それぞれ1箇所ずつとし、備考欄に左・右を明記)		あり	11 沿道の建物・塀・庭木等が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				12 沿道に看板類が立っているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				13 沿道敷地の垣根が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				14 暗い色の建物が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
				15 樹木が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。		
		16 側方余裕は大きい、建物や樹木が混在した背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。				
		17 側方余裕は大きい、林立した建物(ビル、家屋)が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。				
		18 側方余裕が小さい、建物や樹木が林立した背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。				
		19 その他(電柱、標識柱、照明柱、歩道橋脚、防護柵等)で、横断歩行者に対する視認性が悪い。			左側	
		なし	31 沿道に建物・塀・庭木等がないため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
			32 交差点の手前に建物・塀・庭木等がないため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
			33 沿道が農地(田・畑)であるため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
			34 沿道が空地、残地、公園、池などのオープンスペースであるため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
			35 道路境界に白色の転落防止柵やガードパイプが連続しているため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
			36 白壁の建物やコンクリート擁壁が連続しているため、横断歩行者に対する視認性がよい。			
37 沿道建物と道路境界との間に庭、駐車場、用水路などがあるため、横断歩行者に対する視認性がよい。						
38 上記以外で、横断歩行者に対する視認性がよい。						
40 多車線道路の場合。		右側				

資料 - 1 現地点検の判断基準 [C]

資料 - 1 現地点検の判断基準 [D]

資料 - 1 現地点検の判断基準 [G]

手順

手順

手順

(次ページに続く)

【使用手順 - 1】「様式 - 1 現地点検チェックシート」の作成手順と作成例(続き)

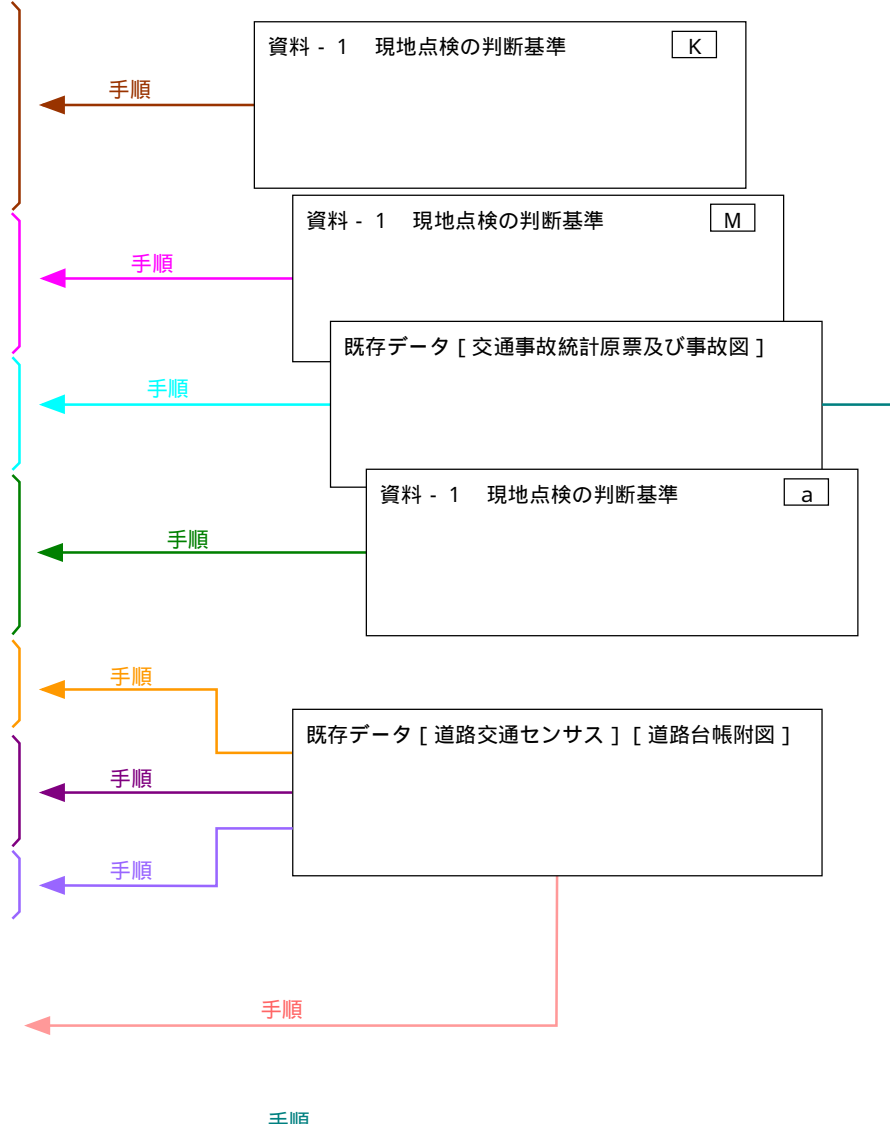
- 手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [K]」に基づき、現地において歩行者横断施設の有無を確認し、「様式 - 1 K歩行者横断施設」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [M]」に基づき、現地において乱横断防止施設の有無を確認し、「様式 - 1 M乱横断防止施設」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「交通事故統計原票」及び「事故図」に基づき、対象箇所における非高齢者の横断歩行中事故の有無を確認し、「様式 - 1 O非高齢者の横断歩行中事故」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「資料 - 1 現地点検の判断基準 [a]」に基づき、現地において道路形状を確認し、「様式 - 1 a道路形状」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「道路交通センサス」に基づき、対象箇所の沿道状況を確認し、「様式 - 1 h沿道状況」の該当欄に 印を記入する。

- 手順 「道路交通センサス」に基づき、対象箇所の12時間混雑度(平日)を確認し、「様式 - 1 k12時間混雑度」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「道路交通センサス」に基づき、対象箇所の指定最高速度を確認し、「様式 - 1 m指定最高速度」の該当欄に 印を記入する。
- 手順 「交通事故統計原票」及び「事故図」に基づき、対象事故の諸元を確認し、「様式 - 1 事故データ欄」に記入する。
- 手順 「道路交通センサス」及び「道路台帳附図」に基づき、対象箇所の諸元を確認し、「様式 - 1 備考欄」に記入する。

様式 - 1  
現地点検チェックシート(2 / 2)(使用例) - 愛媛 -

記入者所属・氏名	
路線名(距離程)	国道11号(237.547km)
箇所(所在地)	11

点検区分	点検項目	点検内容	集約後のカテゴリー	判断基準	印記入欄	備考
2.横断施設	K 歩行者横断施設	対象箇所が交差点の場合、前後30m区間の歩行者横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下道)の有無を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[K]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は該当箇所すべてに記入)	流入側と流出側を組み合わせて集約(資料 - 1参照) i1 流入側に横断歩道が設置されている。 i2 " 横断歩道橋が設置されている。 i3 " 地下歩道が設置されている。 i4 " 横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下歩道)が設置されていない。 o1 流出側に横断歩道が設置されている。 o2 " 横断歩道橋が設置されている。 o3 " 地下歩道が設置されている。 o4 " 横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下歩道)が設置されていない。 3:該当なし 3 対象箇所が交差点以外。(交差道路がないのに横断施設が設置されている場合を含む)			
	M 乱横断防止施設	対象箇所の前後30m区間の乱横断防止柵(連続した植樹帯、かさ上げした植樹柵、防止看板、歩・車別橋を含む)の有無を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[M]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし	1 乱横断防止柵なし。 2 乱横断防止柵あり。		
3.道路環境	O 非高齢者の横断歩行中事故	既存データに基づき、対象箇所における最近(3~4年の間)の非高齢者の横断歩行中事故の有無を確認し、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし	1 非高齢者の横断歩行中の事故あり。 2 非高齢者の横断歩行中の事故なし。		
4.道路状況	a 道路形状	対象箇所の道路形状を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[a]」を参考にして、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は1箇所のみ) 注)交差点部とは、交差点及びその付近(停止線より30m以内)をさす。	1;信号交差点部 2;無信号交差点部 3;単路部	1 信号交差点部 2 押しボタン式信号或いは感知式信号のある交差点部 3 無信号交差点部 4 接続道路(車両通行可)のある中央帯開口部 5 接続道路(車両通行可)のない中央帯開口部 6 上記以外の単路部(車両出入口あり) 7 上記以外の単路部(車両出入口なし)		
	h 沿道状況	対象箇所の沿道状況を最新の「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:DID,その他市街地 2平地部 3山地部	1 DID 2 その他市街地 3 平地部 4 山地部		
5.交通状況	k 12時間混雑度	対象箇所の12時間混雑度(平日)を最新の「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に 印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:0未満 2:1.5未満 3:1.5以上	1 0.5未満 2 0.5以上で1.0未満 3 1.0以上で1.5未満 4 1.5以上で2.0未満 5 2.0以上		
	m 指定最高速度	対象箇所の指定最高速度を最新の「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に 印を記入。(印は1箇所のみ)	1:40km/hr 2:50km/hr 3:60km/hr	1 40km/hr 2 50km/hr 3 60km/hr		



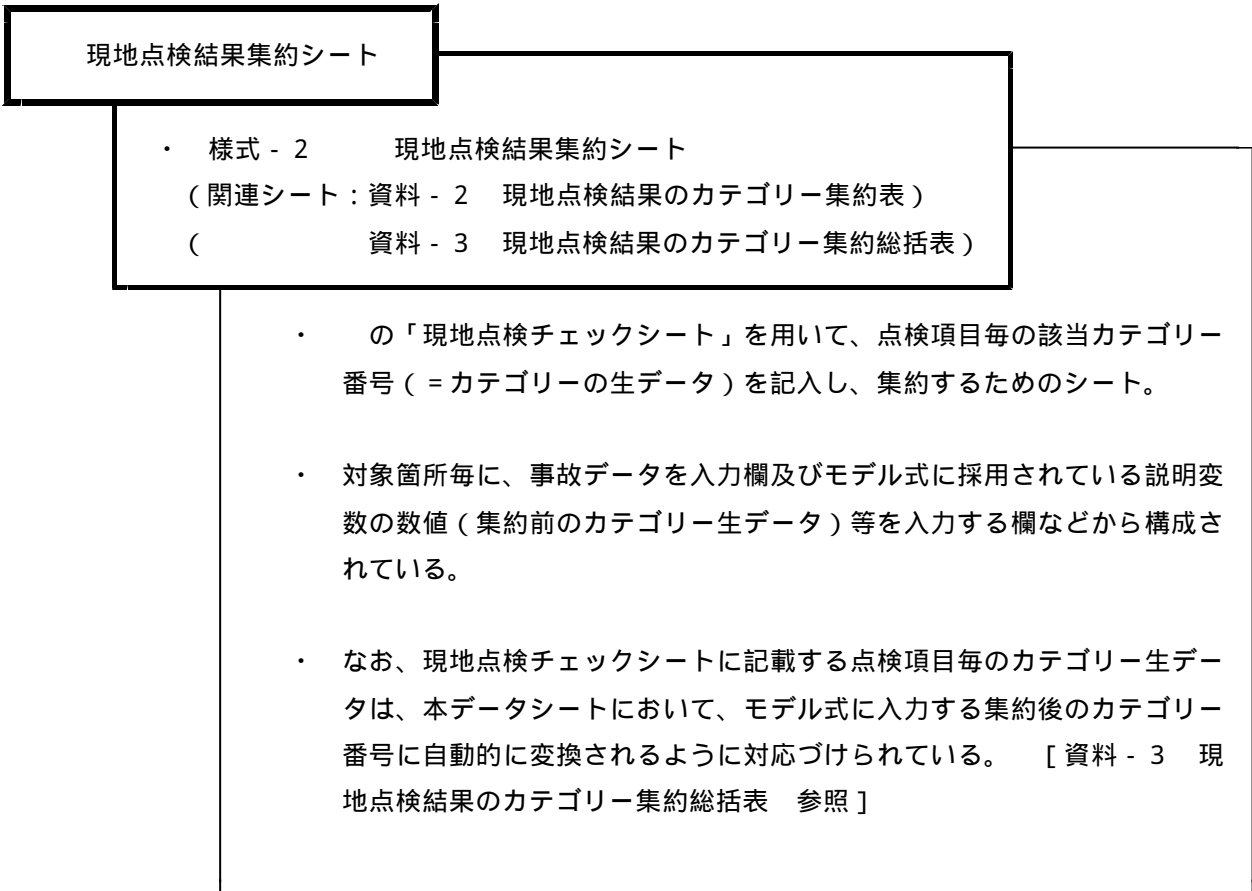
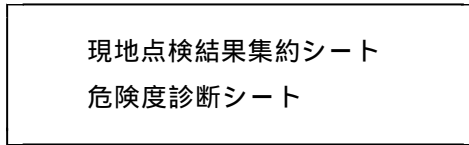
【事故データ等記入欄】

調査票番号	718
車線方向(印)	1. 上り 2. 下り 3. その他(支線) 4. 非発生
歩行者横断方向(印)	1. 左 2. 右 3. 進行方向 4. 対面方向 5. 非発生
非高齢者横断中事故件数	1(件)

備考	車線数区分(印)	1. 2車線 2. 2車線(暫定) 3. 4車線 4. 6車線以上
	H9道路交通センサスNO	124
	写真番号	11
	台帳附図ページ	11

(3) 危険度評価用ツールの内容と使用方法

「 現地点検チェックシート」のデータを使用し、対象箇所の危険度評価を行うためのツールであり、次の二つのシートから構成される。



( 【使用手順 - 】 「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の作成手順と作成例 を参照)

【使用手順 - 2】「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の作成手順と作成例（その1）

# 【使用手順 - 2】「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の作成手順と作成例

「様式 - 1 現地点検チェックシート」の記載データを「様式 - 2 現地点検結果集約シート」(Excelデータファイル)に入力し、危険度診断モデル式に使用する集約データを自動作成する。

様式 - 2 の作成例は、愛媛県内18箇所のうち10箇所に関して作成した結果を示す。

- 手順 様式 - 1 の [ C 歩道の植栽 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の C 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ D 中央分離帯の植栽 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の D 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ G 沿道施設 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の g1(左側)、g2(右側)欄にそれぞれ入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ K 歩行者横断施設 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の K 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ M 乱横断防止施設 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の M 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ O 非高齢者の横断歩行中事故 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の O 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ a 道路形状 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の aa 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ h 沿道状況 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の hh 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ k 12時間混雑度 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の kk 欄に入力する。
- 手順 様式 - 1 の [ m 指定最高速度 ] の 印番号を「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の mm 欄に入力する。また、[ 事故データ欄 ] 及び [ 備考欄 ] をそれぞれ入力する。

様式 - 2 現地点検結果集約シート(使用例) - 愛媛 -

記入者氏名		
工事事務所名	課 係名	氏名

- 現地点検結果に基づき入力する項目 (= カテゴリ集約前の生データ:「様式 - 1 現地点検チェックシート」のカテゴリ番号)
- 自動的にカテゴリ集約される項目 (カテゴリ集約前集約後の対応表については資料 - 3参照。)
- モデル式に入力する項目 (= カテゴリ集約後の説明変数値)

整理番号	箇所	路線番号	調査番号	事故データ(事故図から読み取り入力)					説明変数別カテゴリカルデータ(現地調査等から入力)													備考			
				車線方向 1:上り 2:下り 3:その他(支線) 4:非発生	歩行者横断方向 1:左 2:右 3:進行方向 4:対面方向 5:非発生	非高齢者横断中事故件数	1.視認性				2.横断施設他		3.道路環境	4.道路状況			5.交通状況			車線区分	人口	H9センサスNO	写真番号	台帳附頁	
							C	D	C1	D1	D2	C2	g1	g2	G	G1	K	M	O						aa

<愛媛> 18箇所 / 34箇所

1	3	11	120	2	1	0	3		5				19	17			11		1	2	2	2	2	4	2	1	156.075	103	37	3
2	4	11	153	1	1	0	3		5				19	15			13		1	2	3	2	4	2	2	1	160.375	104	4	4
3	6	11	249	1	2	0	3		5				19	19			20		1	2	1	2	5	2	2	1	182.271	110	6	6
4	7	11	409	1	2	0	3		5				12	19			3		1	2	6	1	5	2	1	188.500	112	7	7	
5	9	11	321	2	2	0	15		5				37	15			13		1	2	6	3	3	2	2	1	207.795	116	43	9
6	10	11	199	2	1	1	15		12				17	40			13		1	1	3	1	3	3	1	2	237.323	124	44	10
7	11	11	718	1	1	1	15		12				19	40			13		1	1	3	1	3	3	1	2	237.547	124	11	11
8	13	33	20	2	1	0	15		5				34	17			12		1	1	2	3	3	2	2	1	88.417	131	47	13
9	14	33	17	2	2	0	13		4				16	40			3		2	2	6	2	4	2	2	1	109.035	133	48	14
10	18	56	332	2	2	0	24		5				19	34			20		1	1	2	1	4	4	2	1	279.571	164	52	18

箇所 11

様式 - 1 現地点検チェックシート(2/2)(使用例) - 愛媛 -

記入者氏名	
路線名(距離)	国道11号(237.547km)
箇所(所在地)	11

様式 - 1 現地点検チェックシート(1/2)(使用例) - 愛媛 -

点検区分	点検項目	点検内容	集約後のカテゴリ	判断基準	印記欄	備考	
1.視認性	C 歩道の植栽	対象箇所の手前10m区間の歩道の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[C]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし 3:該当なし	11 信号交差点で植栽帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 12 信号のない交差点で植栽帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 13 沿道敷地の出入口で植栽帯が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 14 信号のない交差点で植栽帯が高く、また植栽帯も低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 15 植栽帯は低層化されているが、中・高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 16 植栽帯は無いが、植栽帯の中・高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 17 その他(植栽の設置位置が適切でない、枝張り太く、葉が多い、幹太く、横断歩行者に対する視認性が悪い。 21 信号交差点で植栽帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 22 信号のない交差点で植栽帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 23 沿道敷地の出入口で植栽帯が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 24 信号のない交差点で植栽帯が低く、また植栽帯も低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 25 植栽帯が花壇で低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 26 植栽帯は低層化され、中・高木の間隔も長い。横断歩行者に対する視認性がよい。 27 植栽帯はなく、植栽帯の中・高木の間隔も長い。横断歩行者に対する視認性がよい。 28 その他(適切に植栽はない、枝張り小く、葉少ない、幹細く等)で、横断歩行者に対する視認性がよい。 3 歩道に植栽がない。			
		D 中央分離帯の植栽	対象箇所の手前30m区間(交差点以外では手前10m区間)の中央分離帯の植栽状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[D]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし 3:該当なし	11 交差点(分離帯開口部を含む)で中央分離帯の植栽が低層化されていないため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 12 中央分離帯に低木植栽はないが、高木が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 13 中央分離帯にかかわるその他の要因で、横断歩行者に対する視認性が悪い。 21 交差点で中央分離帯の植栽が除去されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 22 交差点で中央分離帯の植栽が低層化されているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 23 中央分離帯の低木が連続していないため、横断歩行者に対する視認性がよい。 24 中央分離帯の緑化方法がその地(草花、音の低い雑草等)で、横断歩行者に対する視認性がよい。 3 中央分離帯に植栽がない。 4 中央分離帯に植栽がない。 5 中央分離帯がない。		
		G 沿道施設(建物・塀・庭木等)	対象箇所の沿道施設(建物・塀・庭木等)の状況と横断歩行者に対する視認性を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[G]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は左・右の沿道それぞれ1箇所ずつとし、備考欄に左・右を明記)	あり なし	11 沿道の建物・塀・庭木等が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 12 沿道に看板類が立っているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 13 沿道敷地の垣根が連続しているため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 14 暗い色の建物が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 15 樹木が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 16 側方余裕は大きい。建物や樹木が混在した背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 17 側方余裕は小さいが、林立した建物(ビル、家屋)が背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 18 側方余裕が小さい。建物や樹木が林立した背景になるため、横断歩行者に対する視認性が悪い。 19 その他(電柱、電線塔、照明柱、歩道橋等)で、横断歩行者に対する視認性が悪い。 31 沿道に建物・塀・庭木等がないため、横断歩行者に対する視認性がよい。 32 交差点の手前に建物・塀・庭木等がないため、横断歩行者に対する視認性がよい。 33 沿道が農地(田・畑)であるため、横断歩行者に対する視認性がよい。 34 沿道が空地、残地、公園、池などのオープンスペースであるため、横断歩行者に対する視認性がよい。 35 道路境界に白色の転落防止柵やガードパイプが連続しているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 36 白壁の建物やコンクリート構造物が連続しているため、横断歩行者に対する視認性がよい。 37 沿道建物と道路境界との間に庭・駐車庫、用水路などがあるため、横断歩行者に対する視認性がよい。 38 上記以外で、横断歩行者に対する視認性がよい。 40 多車線道路の場合。		

点検区分	点検項目	点検内容	集約後のカテゴリ	判断基準	印記欄	備考
2.横断施設	K 歩行者横断施設	対象箇所が交差点の場合、前後30m区間の歩行者横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下道の有無を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[K]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は該当箇所すべてに記入)	1:あり 2:なし	11 流入側に横断歩道が設置されている。 12 横断歩道橋が設置されている。 13 地下歩道が設置されている。 14 横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下歩道)が設置されていない。 01 流出側に横断歩道が設置されている。 02 横断歩道橋が設置されている。 03 地下歩道が設置されている。 04 横断施設(横断歩道、横断歩道橋、地下歩道)が設置されていない。 3:該当なし 2:対象箇所が交差点以外、(交差道路がないのに横断施設が設置されている場合を含む)		
		M 乱横断防止施設	対象箇所の前後30m区間の乱横断防止柵(連続した植栽帯、かさ上げした植栽帯、防止看板、歩・車別柵を含む)の有無を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[M]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし	1 乱横断防止柵なし。 2 乱横断防止柵あり。	
3.道路環境	O 非高齢者の横断歩行中事故	既存データに基づき、対象箇所における最近(3・4年の間)の非高齢者の横断歩行中の事故の有無を確認し、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:あり 2:なし	1 非高齢者の横断歩行中の事故あり。 2 非高齢者の横断歩行中の事故なし。		
4.道路状況	a 道路形状	対象箇所の道路形状を確認し、「資料 - 1 現地点検の判断基準[a]」を参考にして、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:信号交差点 2:押しボタン式信号或いは感知式信号のある交差点 3:無信号交差点 4:接続道路(車両通行可)のある中央分離帯 5:接続道路(車両通行可)のない中央分離帯 6:上記以外の単路部(車両出入口あり) 7:上記以外の単路部(車両出入口なし)			
	h 沿道状況	対象箇所の沿道状況を確認し、「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:0.1.その他市街地 2:平地部 3:平地部 3.1:平地部 4:山地部			
5.交通状況	k 12時間混雑度	対象箇所の12時間混雑度(平日)を最新の「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に印を記入。 (印は1箇所のみ)	1:1.0未満 2:1.5未満 3:1.5以上	1 0.5未満 2 0.5以上で1.0未満 3 1.0以上で1.5未満 4 1.5以上で2.0未満		
	m 指定最高速度	対象箇所の指定最高速度を最新の「道路交通センサス」で確認し、右欄の該当箇所に印を記入。(印は1箇所のみ)	1:40km/hr 2:50km/hr 3:60km/hr	1 40km/hr 2 50km/hr 3 60km/hr		

事故データ等記入欄

調査番号	718
車線方向(印)	上り 2 下り 3 その他(支線) 4 非発生
歩行者横断方向(印)	左 右 2 右 左 3 進行方向 4 対面方向 5 非発生
非高齢者横断中事故件数	1(件)

備考

車線区分(印)	1. 2車線 2. 2車線(暫定) 3. 4車線 4. 6車線以上
H9道路交通センサスNO	124
写真番号	11
台帳附頁ページ	11

(次ページに続く)



【使用手順 - 1】「様式 - 2 現地点検結果集約シート」の作成手順と作成例(続き)

Excelファイルでデータ整理の場合、C1、D1、D2、C2、G、G1、K1、aa1、hh1及びkk1の10変数が自動計算されるので、計算結果を確認して【使用手順 - 2】へ進む。

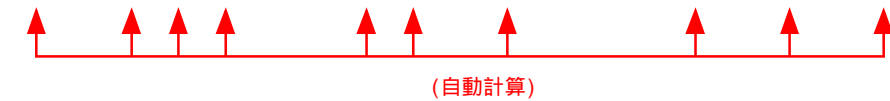
様式 - 2  
現地点検結果集約シート(使用例) - 愛媛 -

記入者氏名

工事事務所名	課 係名	氏名
--------	------	----

- 現地点検結果に基づき入力する項目 (= カテゴリ集約前の生データ「様式 - 1 現地点検チェックシート」のカテゴリ番号)
- 自動的にカテゴリ集約される項目 (カテゴリ集約前・集約後の対応表については資料 - 3参照。)
- モデル式に入力する項目 (= カテゴリ集約後の説明変数値)

整理番号	事故データ(事故図から読取り入力)					説明変数別カテゴリカルデータ(現地調査等から入力)															備考											
	箇所	路線番号	調査票番号	車線方向 1.上り 2.下り 3.その他(交線) 4.非発生	歩行者横断方向 1.左 2.右 3.進行方向 4.対面方向 5.非発生	非高齢者横断中事故件数	1.視認性					2.横断施設他			3.道路環境			4.道路状況				5.交通状況			車線区分	ポスト	H9センサスNO	写真番号	台帳図頁			
							C	D	C1	D1	D2	C2	g1	g2	G	G1	K	K1	M	O	a	h	k	m								
<愛媛> 18箇所 / 34箇所																																
1	3	11	120	2	1	0	3	3	5	5	3	3	19	17	1	1	11	1	1	2	2	1	2	1	4	3	2	1	156.075	103	37	3
2	4	11	153	1	1	0	3	3	5	5	3	3	19	15	1	1	13	1	1	2	3	2	2	1	4	3	2	1	160.375	104	4	4
3	6	11	249	1	2	0	3	3	5	5	3	3	19	19	1	1	20	2	1	2	1	1	2	1	5	3	2	1	182.271	110	6	6
4	7	11	409	1	2	0	3	3	5	5	3	3	12	19	1	1	3	3	1	2	6	3	1	1	5	3	2	1	188.500	112	7	7
5	9	11	321	2	2	0	15	1	5	5	3	1	37	15	2	1	13	1	1	2	6	3	3	2	3	2	2	1	207.795	116	43	9
6	10	11	199	2	1	1	15	1	12	1	1	1	17	40	3	1	13	1	1	1	3	2	1	1	3	2	1	2	237.323	124	44	10
7	11	11	718	1	1	1	15	1	12	1	1	1	19	40	3	1	13	1	1	1	3	2	1	1	3	2	1	2	237.547	124	11	11
8	13	33	20	2	1	0	15	1	5	5	3	1	34	17	2	1	12	1	1	2	3	2	3	2	2	1	2	1	88.417	131	47	13
9	14	33	17	2	2	0	13	1	4	4	3	1	16	40	3	1	3	3	2	2	6	3	2	1	4	3	2	1	109.035	133	48	14
10	18	56	332	2	2	0	24	2	5	5	3	2	19	34	3	1	20	2	1	2	3	2	4	3	4	3	2	1	279.571	164	52	18



## 危険度診断シート

### ・ 様式 - 3 危険度診断シート

- ・ 対象箇所毎に、 の「現地点検結果集約シート」に出力された集約後のカテゴリ番号を本シートに入力すれば、その箇所における事故発生の危険度評価値（サンプルスコア）が本シートにおいて自動計算される。
- ・ 箇所毎のサンプルスコアを事故発生・非発生の境界値（下表参照）と比較することにより、事故発生の危険の有無が判定できる。
- ・ さらに、その箇所のサンプルスコアを事故発生・非発生各群の平均値、最大・最小値（下表参照）と比較したり、他の箇所のサンプルスコアと大小比較することにより、危険度の大きさや対策の必要性・優先度等について検討することができる。
- ・ この危険度診断シートにより、サンプルスコアが事故発生群の平均値を大きく上回ったり、事故発生群の最大値付近にまで達した箇所は、“事故発生の危険度が高い”と判断する。

< 参考：様式 3 より抜粋 >

		カテゴリースコア	
		最大値	2 . 2 4 7
判別群	1 群：発生	平均値	0 . 6 7 2
		境界値	- 0 . 0 8 3
		2 群：非発生	平均値
		最小値	- 2 . 3 1 7

( 【使用手順 - 】 「様式 - 3 危険度診断シート」の作成手順と作成例 を参照)

【使用手順 - 2】「様式 - 3 危険度診断シート」の作成手順と作成例

【使用手順 - 1】 「様式 - 3 危険度診断シート」の作成手順と作成例

「様式 - 2 現地点検結果集約シート」を使用し、「様式 - 3 危険度診断シート」を作成する。

様式 - 2、様式3の作成例は、愛媛県内18箇所のうち10箇所に関して作成した結果を示す。

Excelファイルでデータ整理の場合、「様式 - 3 危険度診断シート」の[カテゴリウエイト][サンプルスコア]、[判別群判定結果]、[危険度評価ランク]が自動計算されるので、計算結果を確認して【使用手順 - 2】へ進む。

様式 - 2  
現地点検結果集約シート(使用例) - 愛媛 -

記入者氏名		
工事事務所名	課 係名	氏名

- 現地点検結果に基づき入力する項目 (= カテゴリ集約前の生データ:様式 - 1 現地点検チェックシート のカテゴリ番号)
- 自動的にカテゴリ集約される項目 (カテゴリ集約前・集約後の対応表については資料 - 3参照。)
- モデル式に入力する項目 (= カテゴリ集約後の説明変数値)

整理番号	箇所	路線番号	調査番号	事故データ(事故図から読み取り入力)					説明変数別カテゴリカルデータ(現地調査等から入力)														備考			
				車線方向	歩行者横断方向	非高齢者横断中事故件数	1.視認性				2.横断施設他				3.道路環境		4.道路状況		5.交通状況							
							C	D	G	C2	K	M	O	aa	hh	kk	mm									

<愛媛> 18箇所 / 34箇所																																
1	3	11	120	2	1	0	3	3	5	5	3	3	19	17	1	1	11	1	1	2	2	1	2	1	4	3	2	1	156.075	103	37	3
2	4	11	153	1	1	0	3	3	5	5	3	3	19	15	1	1	13	1	1	2	3	2	2	1	4	3	2	1	160.375	104	4	4
3	6	11	249	1	2	0	3	3	5	5	3	3	19	19	1	1	20	2	1	2	1	1	2	1	5	3	2	1	182.271	110	6	6
4	7	11	409	1	2	0	3	3	5	5	3	3	12	19	1	1	3	3	1	2	6	3	1	1	5	3	2	1	188.500	112	7	7
5	9	11	321	2	2	0	15	1	5	5	3	1	37	15	2	1	13	1	1	2	6	3	3	2	3	2	2	1	207.795	116	43	9
6	10	11	199	2	1	1	15	1	12	1	1	1	17	40	3	1	13	1	1	1	3	2	1	1	3	2	1	2	237.323	124	44	10
7	11	11	718	1	1	1	15	1	12	1	1	1	19	40	3	1	13	1	1	1	3	2	1	1	3	2	1	2	237.547	124	11	11
8	13	33	20	2	1	0	15	1	5	5	3	1	34	17	2	1	12	1	1	2	3	2	3	2	2	1	2	1	88.417	131	47	13
9	14	33	17	2	2	0	13	1	4	4	3	1	16	40	3	1	3	3	2	2	6	3	2	1	4	3	2	1	109.035	133	48	14
10	18	56	332	2	2	0	24	2	5	5	3	2	19	34	3	1	20	2	1	2	3	2	4	3	4	3	2	1	279.571	164	52	18

様式 - 3  
危険度診断シート(使用例) - 愛媛 -

...検討対象箇所のサンプルスコア算出用  
注)モデル式には、『ケース5(9変数)』を使用

(自動計算)

工事事務所	松山
-------	----

《危険度評価ランク》	
危険度が高い (= 発生群に属する可能性がある)	0.672 < サンプルスコア
危険度はやや高い (= 発生群に属する可能性がややある)	-0.083 < サンプルスコア < 0.672
危険度はほとんどない (= 発生群に属する可能性はまずない)	-0.616 < サンプルスコア < -0.083
危険度は全くない (= 発生群に属する可能性はほとんどない)	サンプルスコア < -0.616

説明変数	項目名	説明変数のカテゴリ-NO. とカテゴリ-ウエイト														判別群				
		カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	1群:発生	2群:非発生			
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.003	2:なし	-0.775	3:該当無し	0.075	3	0.075	3	0.075	3	0.075	3	0.075	1	0.003			
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.364	2:なし	-0.777	-	-	1	0.364	1	0.364	1	0.364	1	0.364	1	0.364			
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.340	2:なし	0.038	3:該当無し	-1.581	1	0.340	1	0.340	2	0.038	3	-1.581	1	0.340			
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.055	2:なし	-0.216	-	-	1	0.055	1	0.055	1	0.055	1	0.055	1	0.055			
O	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無	1:あり	0.646	2:なし	-0.109	-	-	2	-0.109	2	-0.109	2	-0.109	2	-0.109	2	-0.109			
aa1	道路形状	1:信号交差点部	-0.864	2:無信号交差点部	0.126	3:単路部	0.974	1	-0.864	2	0.126	1	-0.864	3	0.974	3	0.974			
hh1	沿道状況	1:DD,その他市街地	0.498	2:平地部	-0.096	3:山地部	-0.081	1	0.498	1	0.498	1	0.498	1	0.498	2	-0.096			
kk1	12%混雑度(平日)	1:1.0未満	0.185	2:1.5未満	-0.062	3:1.5以上	-0.058	3	-0.058	3	-0.058	3	-0.058	3	-0.058	2	-0.062			
mm	指定最高速度	1:40km/h	-0.295	2:50km/h	-0.053	3:60km/h	0.718	2	-0.053	2	-0.053	2	-0.053	2	-0.053	2	-0.053			
		1群:発生		最大値	2.247		サンプルスコア	0.248	サンプルスコア	1.238	サンプルスコア	-0.054	サンプルスコア	0.165	サンプルスコア	1.416				
		2群:非発生		平均値	0.672		判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群				
				境界値	-0.083		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群				
				平均値	-0.616		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群				
				最小値	-2.317		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群				

説明変数	項目名	説明変数のカテゴリ-NO. とカテゴリ-ウエイト														判別群				
		カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	1群:発生	2群:非発生			
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.003	2:なし	-0.775	3:該当無し	0.075	1	0.003	1	0.003	1	0.003	1	0.003	2	-0.775			
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.364	2:なし	-0.777	-	-	1	0.364	1	0.364	1	0.364	1	0.364	1	0.364			
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.340	2:なし	0.038	3:該当無し	-1.581	1	0.340	1	0.340	1	0.340	3	-1.581	2	0.038			
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.055	2:なし	-0.216	-	-	1	0.055	1	0.055	1	0.055	2	-0.216	1	0.055			
O	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無	1:あり	0.646	2:なし	-0.109	-	-	1	0.646	1	0.646	2	-0.109	2	-0.109	2	-0.109			
aa1	道路形状	1:信号交差点部	-0.864	2:無信号交差点部	0.126	3:単路部	0.974	2	0.126	2	0.126	2	0.126	3	0.974	2	0.126			
hh1	沿道状況	1:DD,その他市街地	0.498	2:平地部	-0.096	3:山地部	-0.081	1	0.498	1	0.498	2	-0.096	1	0.498	3	-0.081			
kk1	12%混雑度(平日)	1:1.0未満	0.185	2:1.5未満	-0.062	3:1.5以上	-0.058	2	-0.062	2	-0.062	1	0.185	3	-0.058	3	-0.058			
mm	指定最高速度	1:40km/h	-0.295	2:50km/h	-0.053	3:60km/h	0.718	1	-0.295	1	-0.295	2	-0.053	2	-0.053	2	-0.053			
		1群:発生		最大値	2.247		サンプルスコア	1.675	サンプルスコア	1.675	サンプルスコア	0.815	サンプルスコア	-0.178	サンプルスコア	-0.493				
		2群:非発生		平均値	0.672		判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群				
				境界値	-0.083		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	2群	危険度評価ランク	2群				
				平均値	-0.616		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	2群	危険度評価ランク	2群				
				最小値	-2.317		危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	1群	危険度評価ランク	2群	危険度評価ランク	2群				

(4) 対策効果評価用ツールの内容と使用方法

危険度の高い任意路線・箇所の対策効果評価を行うためのツールであり、次の二つのシートから構成される。

改善効果試算シート  
対策イメージカード

改善効果試算シート

・ 様式 - 4 改善効果試算シート

- ・ の「危険度診断シート」により、“事故発生の危険度が高い”と判断された箇所を対策必要箇所として設定。
- ・ まず、各説明変数について、その箇所の危険度評価値（サンプルスコア）を現状値から安全側（非発生側）に移行（低下）させることが可能かどうかを、現状において該当或いは移行後に該当するカテゴリー番号及びカテゴリーウエイトから判断する。
- ・ カテゴリー番号の変更がサンプルスコアの低減に有効と考えられる説明変数を政策変数として選定する。
- ・ その政策変数の組み合わせを検討し、それ毎に対策案として設定する。

--- < 政策変数の組み合わせの例 > -----

- |                        |       |
|------------------------|-------|
| ・ 説明変数 C 2 のみ          | 対策案 1 |
| ・ 説明変数 G 1 のみ          | 対策案 2 |
| ・ 説明変数 K 1 のみ          | 対策案 3 |
| ・ 説明変数 C 2 & G 1       | 対策案 4 |
| ・ 説明変数 C 2 & K 1       | 対策案 5 |
| ・ 説明変数 G 1 & K 1       | 対策案 6 |
| ・ 説明変数 C 2 & G 1 & K 1 | 対策案 7 |

## 改善効果試算シート

### ・ 様式 - 4 改善効果試算シート

(前ページからの続き)

< 注意事項 >

- ・ その際、操作可能な説明変数は、その箇所の状況により異なり、また、カテゴリ操作可能なカテゴリ番号の組み合わせも、箇所毎に異なる。
  - ・ そのため、政策変数の種類とカテゴリ番号の組み合わせについては、その箇所の道路交通状況に応じて設定する必要がある。
- 
- ・ 対策案毎に説明変数の変更後のカテゴリ番号を本シートに入力すれば、対策実施を想定した場合の危険度評価値（カテゴリ変更後のサンプルスコア）を算出することができる。
  - ・ 対策実施を想定した場合の危険度評価値（カテゴリ変更後のサンプルスコア）の現状値に対する変化率の大小を対策案相互間で比較して、効果の順位付けを行う。
  - ・ その結果から、現地の道路交通環境の何を、或いは何と何を改善すれば事故発生の危険度の低減にどの程度効果があるかを評価することができる。

( 【使用手順 - 】 「様式 - 4 改善効果試算シート」の作成手順と作成例 を参照)

【使用手順 - 1】「様式 - 4 改善効果試算シート」の作成手順と作成例

「様式 - 3 危険度診断シート」の判定結果を使用し、「様式 - 3 改善効果試算シート」を作成する。

様式 - 4 の作成例は、様式 - 3 で検討した愛媛県内10箇所のうち、最もサンプルスコアが大きく出た1箇所を対象として、操作可能な政策変数のカテゴリーを組み合わせ、各対策案ごとにカテゴリー変更後のサンプルスコアを算出して示したものの。

手順 「様式 - 3 危険度診断シート」の[危険度評価ランク]で“(危険度が高い)”と判断された箇所の[カテゴリーNO.各欄]の数値を、「様式 - 4 改善効果試算シート」左上欄の[カテゴリーNO.各欄]へ入力する。

手順 上記記入した[カテゴリーNO.各欄]のカテゴリーNO.を変更した場合に、[サンプルスコア]の低減が可能と考えられる[説明変数]を[政策変数]として選定し、[選定欄]に“\*”を入力する。ただし、[説明変数欄]に“\*”印を付したO、hh1、kk1、mmの4変数はカテゴリー操作が不可とし、政策変数に取り上げないものとする。

手順 「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の[カテゴリー変化を実現するための対策内容]を参考にしつつ、[政策変数]の具体的な変更内容を検討するとともにそれらの組み合わせによる対策案を設定し、各対策案毎に[政策変数]の変更後の[カテゴリーNO.]を入力する。

Excelファイルでデータ整理の場合、各対策案の[サンプルスコア]、[判別群判定結果]、[サンプルスコアの変化量]、[サンプルスコア変化率]が自動計算されるので、計算結果を確認する。

手順 各対策案の[サンプルスコア変化率]を大きい順にランク付けし、[変化率順位欄]へ順位を記入する。

Excelファイルでデータ整理の場合、[非発生群へ移行可否欄]が自動計算されるので、計算結果を確認して【使用手順 - 1】へ進む。

様式 - 4  
改善効果試算シート(使用例) - 愛媛 -

...検討対象箇所の改善効果(サンプルスコア変化量)算出用  
注)モデル式には、ケース5(9変数)を使用

検討対象箇所)

工事事務所	松山	路線名	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718
-------	----	-----	-------	------------	----------

説明変数	項目名	説明変数のカテゴリーNO.とカテゴリーウェイト						箇所	調査票番号	今回政策変数として選定:	対策案NO. 1		対策案NO. 2		対策案NO. 3		対策案NO. 4												
		カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト				カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト								
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.003	2:なし	-0.775	3:該当無し	0.075	11	R11-718		C2	手順	2	-0.775	C2		1	0.003	C2		1	0.003	C2		1	0.003			
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	0.364	2:なし	-0.777			1	0.364		G1		1	0.364	G1	手順	2	-0.777	G1		1	0.364	G1		1	0.364			
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.340	2:なし	-0.038	3:該当無し	-1.581	1	0.340		K1		1	0.340	K1		1	0.340	K1	手順	2	0.038	K1		1	0.340			
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	0.055	2:なし	-0.216			1	0.055	手順	M		1	0.055	M		1	0.055	M	手順	2	-0.216	M		1	0.055			
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無	1:あり	0.646	2:なし	-0.109			1	0.646		O*		1	0.646	O*		1	0.646	O*		1	0.646	O*		1	0.646			
aa1	道路形状	1:信号交差点部	-0.864	2:無信号交差点部	0.126	3:準路部	0.974	2	0.126		aa1		2	0.126	aa1		2	0.126	aa1	手順	1	-0.864	aa1		2	0.126			
hh1*	沿道状況	1:DD,その他市街地	0.498	2:平地部	-0.096	3:山地部	-0.081	1	0.498		hh1*		1	0.498	hh1*		1	0.498	hh1*		1	0.498	hh1*		1	0.498			
kk1*	12h混雑度(平日)	1:1.0未満	0.185	2:1.5未満	-0.062	3:1.5以上	-0.058	2	-0.062		kk1*		2	-0.062	kk1*		2	-0.062	kk1*		2	-0.062	kk1*		2	-0.062			
mm*	指定最高速度	1:40km/h	-0.295	2:50km/h	-0.053	3:60km/h	0.718	1	-0.295		mm*		1	-0.295	mm*		1	-0.295	mm*		1	-0.295	mm*		1	-0.295			
判別群		1群:発生						最大値	2.247	サンプルスコア	1.675	2群:非発生		境界値	-0.083	サンプルスコア	0.897	判別群判定結果	1群	サンプルスコア	0.534	判別群判定結果	1群	サンプルスコア	1.404	判別群判定結果	1群	サンプルスコア	0.383
判別群		2群:非発生						平均値	0.672	判別群判定結果	1群	2群:非発生		平均値	-0.616	サンプルスコアの変化量	0.778	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化量	1.141	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化量	0.271	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化量	1.292
注)*:非政策変数(=カテゴリー操作不可)		最小値						-2.317	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化率(%)	46%	最小値		-2.317	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化率(%)	68%	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化率(%)	16%	判別群判定結果	2群	サンプルスコアの変化率(%)	77%		
対策効果		変化率順位						14位	非発生群へ移行可否(可、×、否)	×	手順	変化率順位		12位	非発生群へ移行可否(可、×、否)	×	手順	変化率順位		15位	非発生群へ移行可否(可、×、否)	×	手順	変化率順位		11位	非発生群へ移行可否(可、×、否)	×	手順

対策案NO.	5	対策案NO.	6	対策案NO.	7	対策案NO.	8	対策案NO.	9	対策案NO.	10	対策案NO.	11、11'	対策案NO.	12	対策案NO.	13	対策案NO.	14	対策案NO.	15			
対策カードNO.		対策カードNO.	-	対策カードNO.		対策カードNO.	-	対策カードNO.		対策カードNO.	-	対策カードNO.		対策カードNO.		対策カードNO.		対策カードNO.		対策カードNO.				
説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	説明変数	カテゴリーNO.	カテゴリーウェイト	
C2	手順	2	-0.775	C2	手順	2	-0.775	C2	手順	2	0.003	C2	手順	2	-0.775	C2	手順	2	-0.775	C2	手順	2	-0.775	
G1	手順	2	-0.777	G1	手順	2	0.364	G1	手順	2	-0.777	G1	手順	2	-0.777	G1	手順	2	-0.777	G1	手順	2	-0.777	
K1	1	0.340	K1	1	0.340	K1	手順	2	0.038	K1	1	0.340	K1	手順	2	0.038	K1	手順	2	0.038	K1	手順	2	0.038
M	1	0.055	M	手順	2	-0.216	M	1	0.055	M	手順	2	-0.216	M	1	0.055	M	手順	2	-0.216	M	手順	2	-0.216
O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	O*	1	0.646	
aa1	2	0.126	aa1	2	0.126	aa1	手順	1	-0.864	aa1	2	0.126	aa1	手順	1	-0.864	aa1	手順	1	-0.864	aa1	手順	1	-0.864
hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	hh1*	1	0.498	
kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	kk1*	2	-0.062	
mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	mm*	1	-0.295	
サンプルスコア	-0.244	サンプルスコア	0.626	サンプルスコア	-0.395	サンプルスコア	0.263	サンプルスコア	-0.758	サンプルスコア	0.112	サンプルスコア	-0.515	サンプルスコア	-1.536	サンプルスコア	-0.666	サンプルスコア	-1.029	サンプルスコア	-1.807	サンプルスコア	-1.807	
判別群判定結果	2群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	1群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群	判別群判定結果	2群	
サンプルスコアの変化量	1.919	サンプルスコアの変化量	1.049	サンプルスコアの変化量	2.07	サンプルスコアの変化量	1.412	サンプルスコアの変化量	2.433	サンプルスコアの変化量	1.563	サンプルスコアの変化量	2.19	サンプルスコアの変化量	3.211	サンプルスコアの変化量	2.341	サンプルスコアの変化量	2.704	サンプルスコアの変化量	3.482	サンプルスコアの変化量	3.482	
変化率	115%	変化率	63%	変化率	124%	変化率	84%	変化率	145%	変化率	93%	変化率	131%	変化率	192%	変化率	140%	変化率	161%	変化率	208%	変化率	208%	
順位	8位	順位	13位	順位	7位	順位	10位	順位	4位	順位	9位	順位	6位	順位	2位	順位	5位	順位	3位	順位	1位	順位	1位	
			×				×				×													

## 対策イメージカード

- ・ 様式 - 5 対策イメージカード総括表
- ・ 様式 - 6 対策イメージカード

- ・ の「改善効果試算シート」により、事故発生の危険度低下に効果的であると判断された改善内容（カテゴリー）を事前にイメージできるように、あらかじめ操作可能な説明変数（政策変数）毎或いは変数の組み合わせ毎に、カテゴリーを変更するための対策内容をイメージスケッチ等で表現するためのシート。
- ・ 作成したシートは、説明変数毎或いは変数の組み合わせ毎に総括表を用いて整理し、それとあわせて対策イメージカードを対応づける。
- ・ 上記の改善効果試算時に併せて用いることより、事故発生の危険度低下のために、現地においてどのような対策を実施すれば最も効果的であるかの検討を比較的容易に行うことができる。
- ・ 今回、四国各県で最も危険度が高く出ている箇所を対象として、対策イメージカードの作成例を添付したが、今後、各事務所・出張所で検討していく過程で作成される対策イメージカードを局管内でストック（例えば対策案のデータベース化など）していけば、今後他の箇所での対策案の検討の際に流用できるなど、検討作業の効率化が図られる。

- ( 【使用手順 - 】 「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の作成手順と作成例 を参照)
- ( 【使用手順 - 】 「様式 - 6 対策イメージカード」[現況写真、現況図][事故図]の作成手順と作成例 を参照)
- ( 【使用手順 - 】 「様式 - 6 対策イメージカード」の作成手順と作成例 を参照)



【使用手順 - 5】「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の作成手順と作成例

【使用手順 - 1】 「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の作成手順と作成例

「様式 - 4 改善効果試算シート」の計算結果を使用し、各対策案の対策内容や対策効果をわかりやすく比較評価するため、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」を作成する。

様式 - 5 の作成例は、最もサンプルスコアが大きい愛媛県内 1 箇所を対象として操作可能な政策変数のカテゴリーを組み合わせ、カテゴリー変更後のサンプルスコアを算出した様式 - 4 において、カテゴリー変更によりサンプルスコアが低下し改善効果が現れた政策変数ごとに具体的な対策内容を対応づけ総括したもの。

手順 「様式 - 4 改善効果試算シート」で検討した各対策案のうち、事故発生の危険度低下に効果的であると判断される対策案を選定し、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の<対策イメージカードNO.欄>へ入力する。

手順 各対策案の [ 政策変数 ] の変更事項を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、その具体的な対策イメージを「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の [ カテゴリー変化を実現するための対策内容欄 ] で確認のうえ、該当箇所に “ ” を入力する。また、当該箇所に適した新たな対策イメージを設定する場合は、その内容を総括表の [ カテゴリー変化を実現するための対策内容欄 ] に追加入力するとともに該当箇所に “ ” を入力する。

手順 各対策案の [ サンプルスコア変化率 ] と [ サンプルスコア変化率順位 ] を「様式 - 4 改善効果試算シート」から読みとり、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」の該当箇所に入力する。

様式 - 5  
対策イメージカード総括表(作成例) - 愛媛 -

政策変数 (= カテゴリー操作可能な説明変数)	期待するカテゴリーの変化 ( )はカテゴリーウエイト		カテゴリーウエイト の変化量 (= 事後-事前)	対象箇所 対策イメージカード NO. カテゴリー変化を実現 するための対策内容	愛媛 [国道11号,11-718]									
	事前	事後			手順									
C2:道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1あり (0.003)	2なし (-0.775)	-0.778	歩道・中央分離帯の中高木を撤去										
G1:沿道施設(建物、樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1あり (0.364)	2なし (-0.777)	-1.141	電柱の移設										
				門型道路標識柱の移設										
				看板類の移設										
				建物のセットバック等による道路空間の拡大(沿道の視認性改善)										
K1:横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1あり (0.340)	2なし (0.038)	-0.302	横断歩道橋の設置										
				横断歩道の設置										
M:乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1あり (0.055)	2なし (-0.216)	-0.271	乱横断防止柵の設置										
				歩道植栽樹の連続化(乱横断防止柵の代用)										
				中央分離帯開口部の閉塞(乱横断防止柵の代用)										
aa1:道路形状	2無信号 交差点部 (0.126)	1信号交差点部(押しボタン式、感知式を含む) (-0.864)	-0.990	信号交差点化(押しボタン式及び感知式信号を含む)										
	3単路部 (0.974)	1信号交差点部(押しボタン式、感知式を含む) (-0.864)	-1.838	信号交差点化(押しボタン式及び感知式信号を含む)										
サンプルスコア変化率(%)					208	192	161	145	140	131	131	124	115	
サンプルスコア変化率順位					1位	2位	3位	4位	5位	6位	6位	7位	8位	
備 考	対策イメージカードを添付している資料番号				様式 - 6									
	対応する改善効果試算シート(使用例)の資料番号				様式 - 4									

【使用手順 - 1】 「様式 - 6 対策イメージカード」 [現況写真、現況図][事故図]の作成手順と作成例

「様式 - 4 改善効果試算シート」、現況写真などを使用し、「様式 - 6 対策イメージカード」 [現況写真、現況図][事故図]を作成する。

様式 - 6 の作成例は、最もサンプルスコアが大きい愛媛県内 1 箇所を対象として、カテゴリ変更によりサンプルスコアが低下し改善効果が現れた政策変数ごとに具体的な対策内容を対応づけ総括した様式 - 5 に基づき、対策内容を視覚的に確認するために対策イメージカード(「現況写真、現況図」、「事故図」、「対策イメージ図」)を作成したもの。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 [現況写真, 現況図] -

県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718	
説明変数	項目名			カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウェイト	政策変数
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性			1:あり	0.003	
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性			1:あり	0.364	
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性			1:あり	0.340	
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性			1:あり	0.055	
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無			1:あり	0.646	
aa1	道路形状			2:無信号交差点部	0.126	
hh1*	沿道状況			1:D,D,その他市街地	0.498	
kk1*	12h混雑度(平日)			2:1.5未満	-0.062	
mm*	指定最高速度			1:40km/h	-0.295	
現況写真				サンプルスコア	1.675	



現況図



手順 Excelファイルでデータ整理の場合、対象箇所の[カテゴリ-NO.]、[カテゴリ-ウェイト]、[政策変数]、[サンプルスコア]の各値が自動入力されるので、入力結果を確認する。

手順 対象箇所の現況写真及び現況図(イメージスケッチ)を「様式 - 6 対策イメージカード」 [現況写真、現況図]へ貼付する。

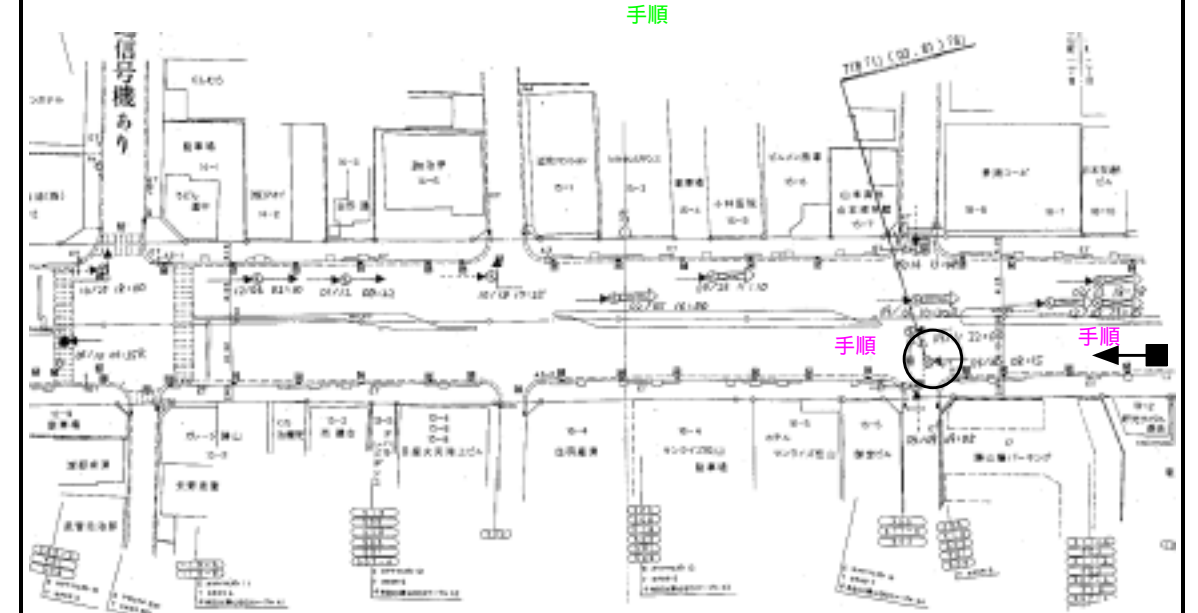
手順 対象箇所の事故図を「様式 - 6 対策イメージカード」 [事故図]へ貼付する。

手順 対象箇所の事故図に、[対象事故の位置]を“ ”で示し、[写真撮影方向]を記入する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 [事故図] -

県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718	
説明変数	項目名			カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウェイト	政策変数
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性			1:あり	0.003	
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性			1:あり	0.364	
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性			1:あり	0.340	
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性			1:あり	0.055	
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無			1:あり	0.646	
aa1	道路形状			2:無信号交差点部	0.126	
hh1*	沿道状況			1:D,D,その他市街地	0.498	
kk1*	12h混雑度(平日)			2:1.5未満	-0.062	
mm*	指定最高速度			1:40km/h	-0.295	
事故図				サンプルスコア	1.675	

→ :写真撮影方向  
○ :対象事故(高齢者横断歩行中事故)



【使用手順 - 1】 「様式 - 6 対策イメージカード」の作成手順と作成例

「様式 - 4 改善効果試算シート」を使用し、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で取りあげた各対策案の「様式 - 6 対策イメージカード」を作成する。

手順 当該対策案で変更対象とした [政策変数] [期待するカテゴリーの変化] を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

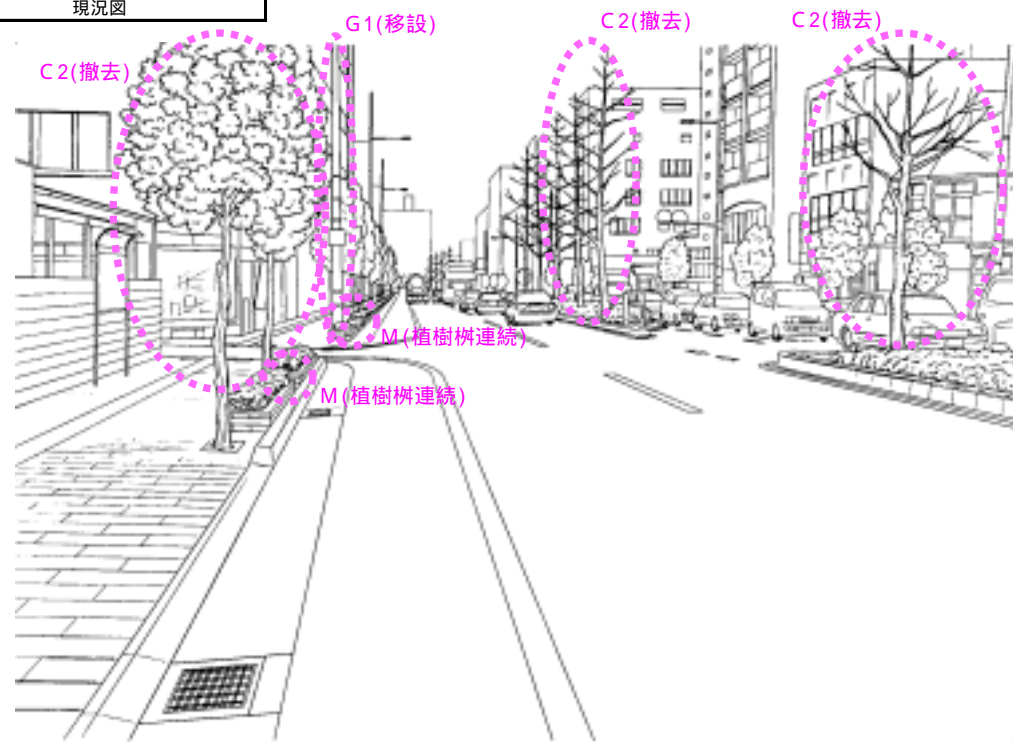
手順 当該対策案でイメージしている [カテゴリー変化を実現するための対策内容] を「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 [現況写真, 現況図] -

県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718
説明変数	項目名		カテゴリーNO.	カテゴリーウエイト	政策変数
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.003	
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.364	
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.340	
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.055	
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無		1:あり	0.646	
aa1	道路形状		2:無信号交差点部	0.126	
hh1*	沿道状況		1:D,D,その他市街地	0.498	
kk1*	12h混雑度(平日)		2:1.5未満	-0.062	
mm*	指定最高速度		1:40km/h	-0.295	
現況写真				サンプルスコア	1.675



現況図

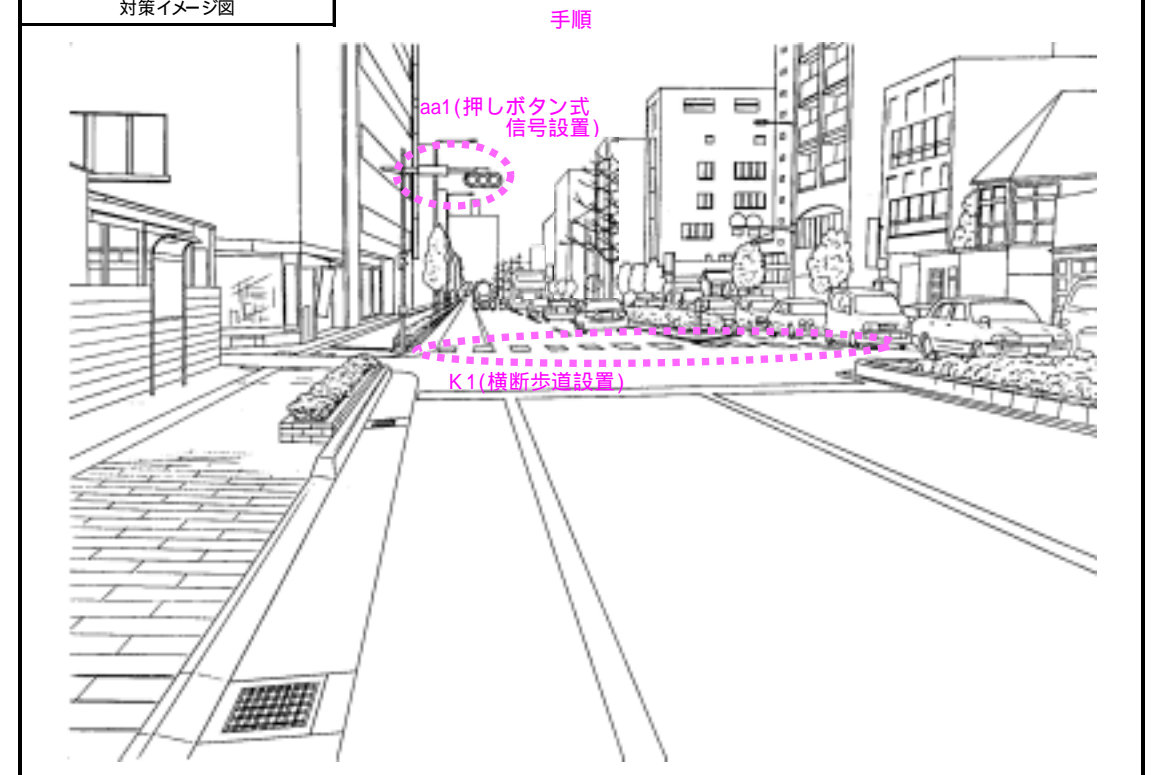


手順 当該対策案の実施による[事前・事後のサンプルスコア]、[サンプルスコア変化率]、[効果順位]を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

手順 当該対策案の実施内容をイメージした [対策イメージ図] を作成し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ貼付する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 -

対策イメージカードNO.		注 対策イメージカードNO.は、様式 - 5に対応している。						
県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718			
対策案NO.	政策変数 (=カテゴリー操作可能な説明変数)	期待するカテゴリーの変化		カテゴリー変化を実現するための対策内容	サンプルスコア		サンプルスコア変化率(%)	効果順位
		事前	事後		事前	事後		
対策案15	C2 道路の植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	歩道中央分離帯の中高木を撤去	1.675	-1.807	208	1位
	G1 沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	電柱の移設				
	K1 横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	2:なし	横断歩道の設置				
	M 乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	2:なし	歩道植栽樹の連続化(乱横断防止柵の代用)				
	aa1 道路形状	2:無信号交差点部	1:信号交差点部(押しボタン式、感知式を含む)	信号交差点化(押しボタン式及び感知式信号を含む)				
対策イメージ図		手順						



【使用手順 - 1】 「様式 - 6 対策イメージカード」の作成手順と作成例(続き)

「様式 - 4 改善効果試算シート」を使用し、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で取りあげた各対策案の「様式 - 6 対策イメージカード」を作成する。

手順 当該対策案で変更対象とした [政策変数] [期待するカテゴリーの変化] を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

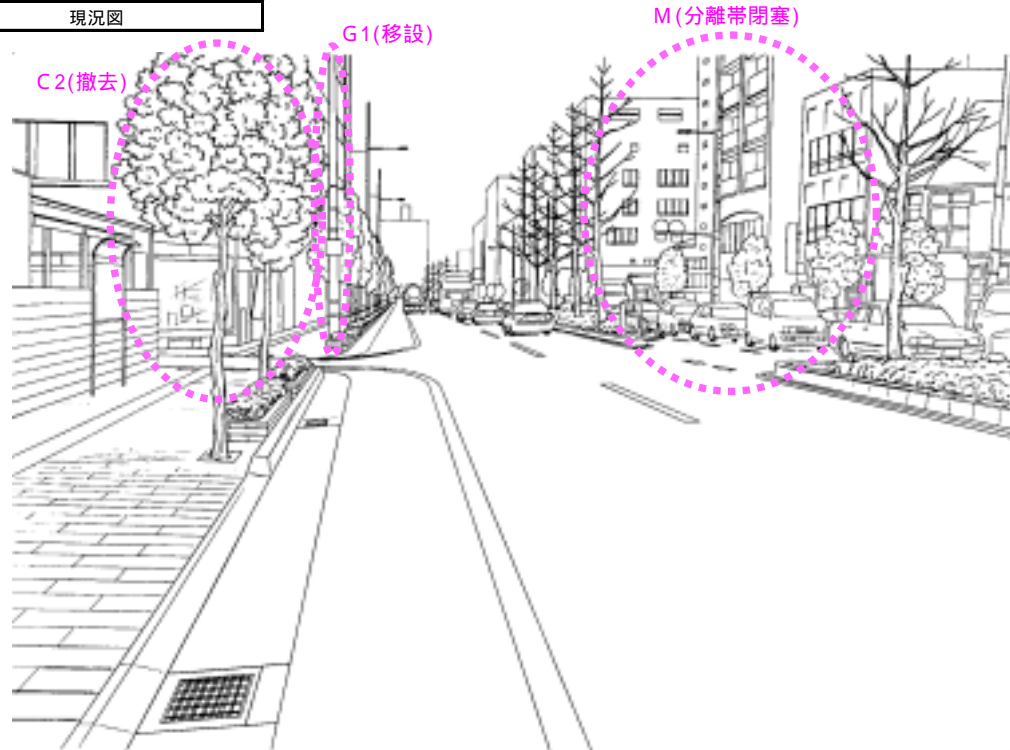
手順 当該対策案でイメージしている [カテゴリー変化を実現するための対策内容] を「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 [現況写真, 現況図] -

県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718
説明変数	項目名		カテゴリ-NO.	カテゴリ-ウエイト	政策変数
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.003	
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.364	
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.340	
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.055	
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無		1:あり	0.646	
aa1	道路形状		2:無信号交差点部	0.126	
hh1*	沿道状況		1:DD,その他市街地	0.498	
kk1*	12h混雑度(平日)		2:1.5未満	-0.062	
mm*	指定最高速度		1:40km/h	-0.295	
現況写真				サンプルスコア	1.675



現況図

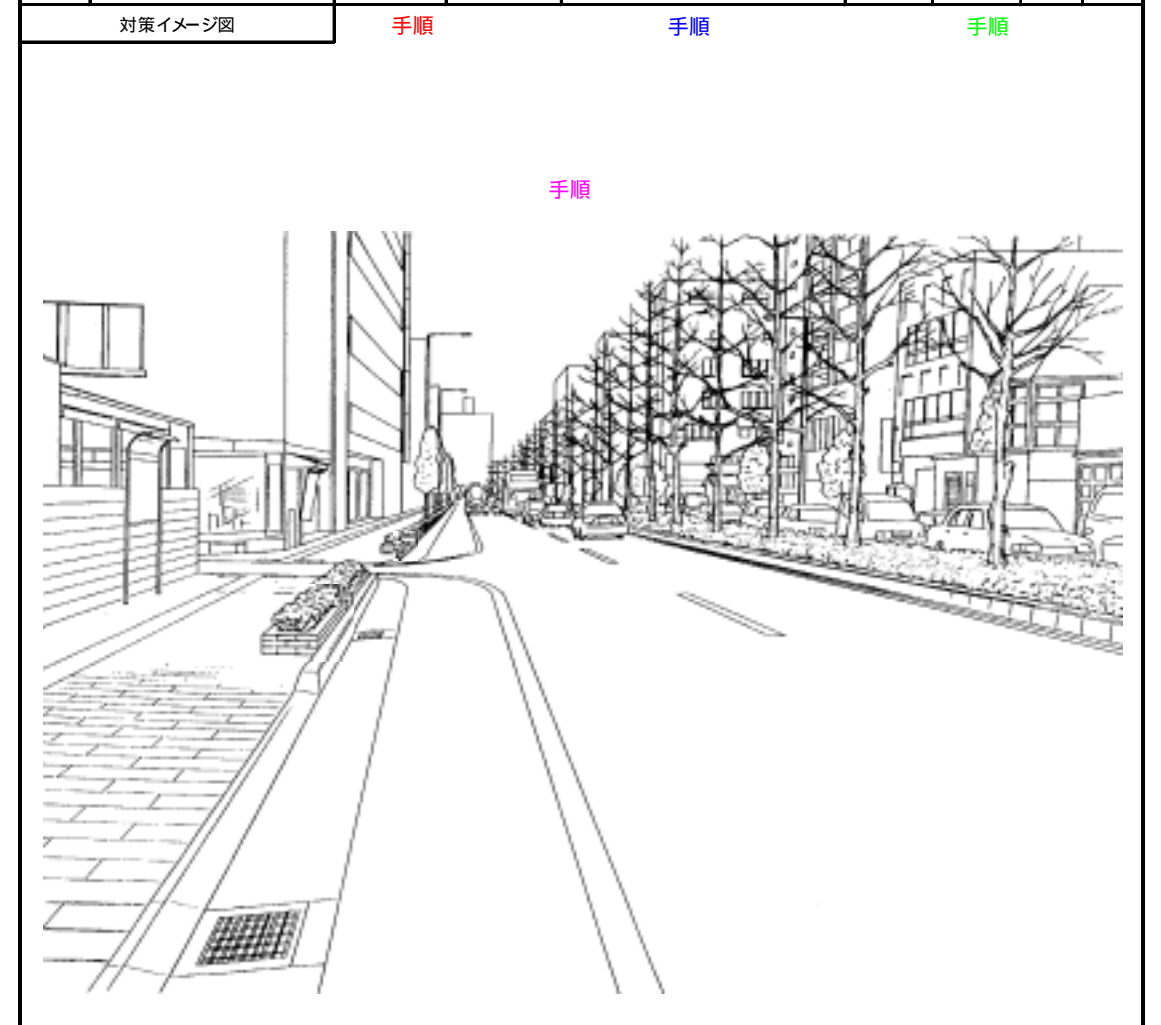


手順 当該対策案の実施による [事前・事後のサンプルスコア]、[サンプルスコア変化率]、[効果順位] を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

手順 当該対策案の実施内容をイメージした [対策イメージ図] を作成し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ貼付する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例) - 愛媛 (続き) -

対策イメージカードNO.		注:対策イメージカードNO.は、様式 - 5に対応している。						
県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718			
対策案NO.	政策変数 (=カテゴリ-操作が可能な説明変数)	期待するカテゴリ-の変化		カテゴリ-変化を実現するための対策内容	サンプルスコア		効果順位	
		事前	事後		事前	事後		
対策案11	C2 道路の植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	歩道の中高木を撤去	1.675	-0.515	131	6位
	G1 沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	電柱の移設				
	M 乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性	1:あり	2:なし	中央分離帯開口部の閉塞(乱横断防止柵の代用)				
対策イメージ図		手順	手順	手順				



【使用手順 - 1】「様式 - 6 対策イメージカード」の作成手順と作成例(続き)

「様式 - 4 改善効果試算シート」を使用し、「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で取りあげた各対策案の「様式 - 6 対策イメージカード」を作成する。

手順 当該対策案で変更対象とした[政策変数][期待するカテゴリーの変化]を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

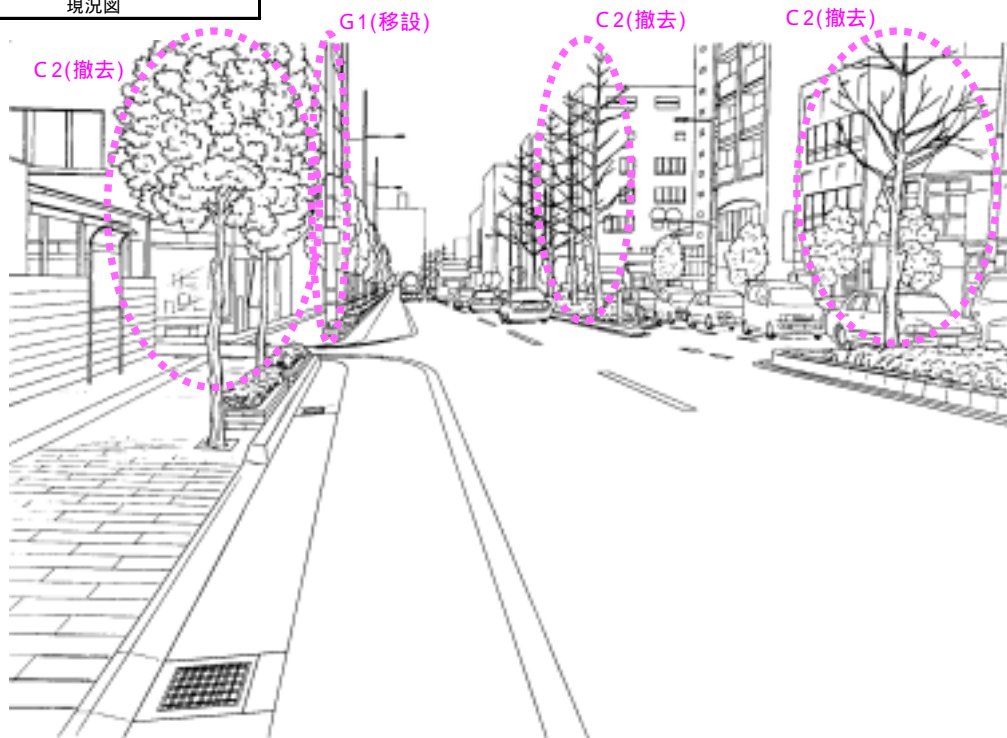
手順 当該対策案でイメージしている[カテゴリー変化を実現するための対策内容]を「様式 - 5 対策イメージカード総括表」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例)-愛媛 [現況写真,現況図]-

県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718
説明変数	項目名		カテゴリーNO.	カテゴリーウエイト	政策変数
C2	道路植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.003	
G1	沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性		1:あり	0.364	
K1	横断動線上に横断施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.340	
M	乱横断を防止する施設がないことに起因する横断施設外横断の危険性		1:あり	0.055	
O*	最近における非高齢者の横断歩行中事故の発生の有無		1:あり	0.646	
aa1	道路形状		2:無信号交差点部	0.126	
hh1*	沿道状況		1:D,D,その他市街地	0.498	
kk1*	12h混雑度(平日)		2:1.5未満	-0.062	
mm*	指定最高速度		1:40km/h	-0.295	
現況写真				サンプルスコア	1.675



現況図



手順 当該対策案の実施による[事前・事後のサンプルスコア]、[サンプルスコア変化率]、[効果順位]を「様式 - 4 改善効果試算シート」で確認し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ入力する。

手順 当該対策案の実施内容をイメージした[対策イメージ図]を作成し、「様式 - 6 対策イメージカード」へ貼付する。

様式 - 6  
対策イメージカード(作成例)-愛媛(続き)-

対策イメージカードNO.		注:対策イメージカードNO.は、様式 - 5に対応している。						
県名	愛媛	路線番号	国道11号	箇所 - 調査票番号	11 - 718			
対策案NO.	政策変数 (=カテゴリー操作が可能な説明変数)	期待するカテゴリーの変化		カテゴリー変化を実現するための対策内容	サンプルスコア		効果順位	
		事前	事後		事前	事後		
対策案5	C2:道路の植栽に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	歩道中央分離帯の中高木を撤去	1.675	-0.244	115	8位
	G1:沿道施設(建物・樹木等)に起因する横断者等確認遅れの危険性	1:あり	2:なし	電柱の移設				
対策イメージ図		手順	手順	手順				

